

試験科目	人間社会研究科 臨床心理学専攻 (一般選抜)
専門基礎	試験時間 45分

以下の文章の空欄 ( 1 ) ~ ( 50 ) に入る最も適切な語句を、解答用紙 (別紙) の解答欄に記入しなさい。

- 「高次脳機能障害」という語は、学術用語としては、脳損傷に起因する認知障害全般を指し、この中にはいわゆる単症状としての失語・( 1 )・( 2 )などのほか ( 3 )、( 4 )、( 5 )、( 6 )などが含まれる。( 3 )から ( 6 )は、「行政的な」定義による高次脳機能障害とも言われ、厚生労働省・国立障害者リハビリテーションセンターの定めた診断基準にも記載されている。
- ソーンドイク (Thorndike, E.) は、問題解決における反復と成功による選択を通じて学習が進む ( 7 ) を提唱した。ケーラー (Köhler, W.) はチンパンジーが突然解決に至る ( 8 ) を示した実験を行った。トールマン (Tolman, E.) は報酬がなくても形成される ( 9 ) を迷路実験で示した。
- 内発的動機づけによって行われている行動に外的報酬が加わることで、もともとあった意欲が低下する現象は ( 10 ) として知られている。課題を学習した直後よりも、一定時間経過した後のほうが記憶が鮮明に想起される現象は ( 11 ) と呼ばれる。
- Y-G 性格検査は、ギルフォードらが考案した人格目録をモデルに作成されたものであり、( 12 ) の下位尺度によって性格特性を測定する。さらにプロフィール欄の系統値から性格を ( 13 ) 類型に分類し、典型、準型、( 14 ) に判定する。
- 森田正馬は、森田療法の治療対象である神経症を、強迫観念症、( 15 )、発作性神経症に分類し、特に ( 16 ) という共通の性格傾向に着目した。
- 児童虐待防止法によれば、児童虐待とは ( 17 ) がその監護する児童について行う行為であり、殴る、蹴る、叩くなどの ( 18 )、性的行為などの性的虐待、家に閉じ込める、食事を与えないなどの ( 19 )、言葉による脅し、無視などの ( 20 ) の4種類に分類される。こどもの目の前で家族に対して暴力をふるう行為 (DV) は ( 21 ) に分類される。
- 森田洋司は、いじめは ( 22 )、( 23 )、( 24 )、( 25 ) の四層構造からなると唱えた。
- ストレスおよびメンタルヘルスに関して、ソーシャルサポートは主に ( 26 ) 効果と ( 27 ) 効果をもっている。
- ラザルス (Lazarus, R.) は、ストレスを個人と ( 28 ) の相互作用として捉え、( 29 ) 的評価とコーピングがストレス反応に影響を与えるという考え方を基本とするストレス理論を提唱した。一次評価で出来事が ( 30 ) と認識されたとき、二次評価で ( 31 ) が評価される。コーピングは、問題自体の解消を目指すものと ( 32 ) に焦点を当てて対処するものに分けられる。
- 10 ストレスマネジメントの技法のひとつで、筋肉を緊張させてから緩めることでリラックスを促す方法を ( 33 ) という。
- 11 『自我と防衛機制 (The Ego and the Mechanisms of Defense)』は ( 34 ) の著作であるが、彼女は ( 35 ) と ( 36 ) を思春期の増大する衝動の不安に対する防衛とした。

- 1 2 DSM-5-TR において新たに正式な診断名として加えられた ( 37 ) は、愛する人を失ったあと、( 38 ) 以上にわたって強い悲嘆反応が続き、社会的・職業的機能に著しい支障を来すことを特徴とし、( 39 ) およびストレス因関連障害群に分類されている。
- 1 3 ( 40 ) とは、ジェンドリン (Gendlin, E. T.) による用語で、現在この瞬間に感じられていて、そこから言葉や豊かな意味が表出される生命体的な過程のことである。
- 1 4 ( 41 ) とは、人がメッセージとメタメッセージが矛盾するコミュニケーション状況におかれ、その矛盾から逃れられず、しかもその状況に応答しなければならないような状態のことである。
- 1 5 ( 42 ) 的因果律とは、システムの要素は相互に関連し、循環しているので、原因を1つに特定することはできないとする考え方であり、( 43 ) 療法の主要な概念である。
- 1 6 内観療法は ( 44 ) が創始した内観法を基礎としており、集中内観と呼ばれる宿泊型の方法と、日常内観と呼ばれる非宿泊型の方法がある。いずれも、母、父、兄弟姉妹、自分の身近な人に対するこれまでの自分の関わりを「してもらったこと」、「して返したこと」、「( 45 )」の3つのテーマに沿って入念に思い出す。
- 1 7 母集団分布として何らかの分布を前提とする統計法は ( 46 ) 統計法、前提としない統計法は ( 47 ) 統計法とよばれる。
- 1 8 対応のない2群の平均値差の95%信頼区間に0が含まれるとき、有意水準を.05として両側検定を行うと、「帰無仮説：母平均値=0」を棄却 ( 48 )。
- 1 9 表1に学習意欲得点とテスト得点の平均値、標準偏差、2変数の相関係数を示す。ここで学習意欲得点を独立変数、テスト得点を従属変数とする単回帰分析を行い、  
 帰無仮説：母回帰係数=0  
 対立仮説：母回帰係数≠0  
 とする有意性検定を行った場合、 $b=0.62$ 、 $SE=0.20$ 、 $p=0.007$  となり、有意水準.05で帰無仮説を棄却 ( 49 )。また、標準回帰係数 ( $\beta$  係数) は ( 50 ) である。

表1 2変数の記述統計量 (人数=20)

変数	平均値	標準偏差	相関係数
学習意欲得点	15.00	5.10	.58
テスト得点	51.70	5.45	